

中学生のメッセージ2018

第40回 少年の主張 三重県大会



デザイン画最優秀賞:「無限の可能性」
津市立朝陽中学校3年 服部 諒雅さん



公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
津地区中学生のメッセージ実行委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構

はじめに

中学生のメッセージ（少年の主張三重県大会）は、昭和54年の国際児童年を契機に始められたものであります。中学生の皆さんが日常生活の中で日頃考え、感じていることなどを広く社会に発表する場として回を重ね、本年度で40回を数えることができました。

本年度は、県内71の中学校から1万166点にのぼる多くの作文が寄せられました。これもひとえに各中学校や青少年育成市町民会議の皆さまの多大なご協力をいただいた賜物と感謝いたします。たくさんの中学生の皆さんに関心を持っていただきました。主催者として、大変嬉しく思います。

今回寄せられた発表一つ一つは、中学生の皆さんそれぞれの個性を表したものです。主張する内容や表現もそれぞれ異なります。本来であれば、たくさんの中学生の皆さんに発表していただくのが本筋ではありますが、今回は、その代表として14名の方々に発表していただきました。

発表者の皆さんは発表することで自分自身を見つめ直すきっかけとなり、自信を深め、今後につながる機会になったのではと感じています。

そして、司会、受付、案内、表彰アシスタントの運営を地元津市の中学生が主体となって行っていただきました。明るい笑顔と優しい気持ちで来場の皆さまをお迎え接してくださり、心温まるものがありました。会場の皆さまからも絶賛いただきました。

また津市橋北地区青少年育成指導委員会の皆さまの実践事例発表と東橋内中学校吹奏楽部の皆さまによるジャズオーケストラの演奏をしていただきました。

このように私どももこの大会を通じて、中学生の皆さまの日頃の活動を発表するなど、社会に向けて幅広く伝える努力を重ねていきたいと思っております。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、実行委員会で事前準備や運営を行っていただきました津市青少年育成市民会議の皆さまを始め、多くの皆さまにご支援・ご協力をいただきました。あらためて厚くお礼を申し上げます。

今後も、「中学生のメッセージ」が、中学生の皆さんにとって輝ける思い出となるよう、地域の皆さまと共に開催していきたいと考えています。

どうぞ今後とも皆さまのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成31年1月

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

理事長 福田 圭 司

中学生のメッセージ 2018

(平成30年8月26日 津リージョンプラザ)



発表者と審査委員の皆さん



受賞者と運営協力していただいた中学生の皆さん

目 次

はじめに

◆大会発表作品

最優秀賞

明るい未来をめざして 津市立橋北中学校 3 年 西井萌々花…… 1

優秀賞

僕たちが国際人になれない理由 津市立橋北中学校 3 年 斎木 亮吾…… 3

人生の幸せ 四日市市立朝明中学校 3 年 平田 結葉…… 5

「働く人」は輝いている 四日市市立港中学校 3 年 宮原 彩花…… 7

優良賞

「救える命」 ～殺処分ゼロを目指して～

松阪市立大江中学校 3 年 奥出 大空…… 9

香害について 津市立久居中学校 2 年 小澤 桜子…… 11

中高生が未来をつくるために 名張市立赤目中学校 2 年 河合 優香…… 13

当たり前前のが当たり前でなくなる事

四日市市立桜中学校 3 年 佐藤 萌花…… 15

未来のロボットと私たち 暁中学校 3 年 龍田 彩…… 17

「文字から伝わる気持ち」 紀北町立紀北中学校 3 年 東 舞香…… 19

「問われる責任、試される自分」 津市立橋北中学校 3 年 星 もえ…… 21

過去に学び、未来を語ろう 四日市市立常磐中学校 3 年 前田 晃成…… 23

「団結と抵抗」 セントヨゼフ女子学園中学校 3 年 向井 天音…… 25

ボランティアを通じて知ったこと

多気町立勢和中学校 2 年 村田 桜良…… 27

◆審査委員のみなさま…… 29

◆審査委員の講評…… 30

◆大会概要

1 応募の状況…… 37

2 地域優秀賞受賞者一覧…… 39

3 学校奨励賞受賞校一覧…… 40

◆大会メモリアル…… 41

◆中学生への応援メッセージ…… 45

◆協賛企業・団体紹介…… 46

◆参考資料

1 中学生のメッセージ2018（第40回少年の主張三重県大会）作文募集要項…… 47

2 平成30年度内閣総理大臣賞の紹介〔少年の主張全国大会～わたしの主張2018〕…… 51

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。



最優秀賞 明るい未来をめざして

津市立橋北中学校3年

西 井 萌々花

皆さんは、政治に興味関心がありますか？「政治は難しくてよくわからない」「政治家の仕事で自分には関係ない」と、思っていないませんか？

二〇一五年、若者の政治意識を高め、若者の声を政治に反映させようと、選挙権年齢が十八歳に引き下げられました。そして、翌年の参院選は、初の十八歳選挙ということで、大きな話題となりましたが、十八歳・十九歳の投票率は五割にも満たず、二十代では三割という低さでした。昨年の衆院選では、さらに下がってしまったそうです。それは、なぜでしょうか？

「まだ選挙権もない中学生には、政治なんて関係ない」と、思っていた私ですが、昨年の後期、生徒会長となり、生徒会活動を体験してみて、政治について少し考えるようになりました。

生徒会活動は、本来、全校生徒による全校生徒の為の活動です。しかし、ほとんどの生徒が、生徒会執行部に任せっきりで無関心のように思えました。そこで私は、何とか皆に興味を持ってもらい、活動に参加してもらいたいという思いから、「アンパンマンBOX」の設置を公約にあげ、実行しました。

「アンパンマンBOX」とは、意見・要望・悩み等、だれでも自由に投書してもらい、それに、愛と勇気を持ってお答えするといった目安箱のようなものです。皆に親しみのあるキャラクターを用いることで、生徒会活動を身近に感じてもらおうという思いがありました。すると、予想外に反響が大きく、たくさんの投書がありました。中には、ふざけたものや、実現できない投書もありましたが、私は、全ての投書に誠心誠意をもって答えるようにしました。たとえ実現出来ない要望であっても、理由をきちんと説明し、時にはユーモアを含め、全ての投書への返答を掲示しました。その結果、どのような意見にも返事が返ってくるのが好評で、投書用紙が足りなくなるほどたくさんの投書が集まりました。そして、いくつかの要望を実現する事が出来ました。中でも、三年生を送る会にて、サプライズで生徒と先生方が一丸となり、フラッシュモブを成功させたことは、最も印象に残っています。このように、多くの生徒の意見を取り上げ、よりよい学校づくりのために反映させたことで、生徒会活動を、より身近に感じてもらえるようになったのではないかと思います。これらの生徒会活動で、私が経験したことは、政治にもあてはまるのではないのでしょうか？

テレビや新聞で見聞きする政治家の言葉は、私たち若者には、難しくて堅苦しいです。ま

★部活動や学校外活動	吹奏楽部
★好きな科目	英語・音楽
★好きなことや好きなもの	サックス演奏・ダンス・お笑い
★将来の夢	海外の人と関わる仕事

た、政治家のスキャンダルや失言、暴言が政治の場で取り上げられ、大事な議論が進まなくなるのは、悲しい気持ちになります。これでは、政治を身近に感じることは、とてもできないでしょう。

最近では、インターネットやSNSを用いた選挙活動が、多くの候補者によって行われています。しかし、これらも大人向けの難しい言葉や政策ばかりが並んでいて、私たち若者の生活からは、縁遠く感じられます。これでは、インターネットやSNSに親しみのある若者であっても、距離を置いてしまいそうです。もっと、若者に向けて分かりやすい情報を発信し、若者が意見や要望を気軽に伝え反映する事ができるようになってほしいです。そうすることで、若者が、政治を身近に感じる事が出来、興味関心を持てるようになるはずです。また、インターネット投票が利用出来るようになれば、投票に行くのが面倒くさいという若者でも投票するようになるのではないかと思います。

まだまだ、政治が、私たち若者に身近なものであるという実感はありません。しかし、政治に関心を持つことは、私たちの未来を考えることでもあります。難しい、面倒くさいと目をそらさず、受け身の姿勢ではなく、自分で情報を集め、自分の考えを持つことが大切です。そして、私たちが選挙権を持った時、与えられたチャンスを逃さずに、自分の意見を政治に反映させることで、私たちの明るい未来を築いて行きましょう！





優秀賞

私たちが国際人になれない理由

津市立橋北中学校3年

齋 木 亮 吾

「Because Japan is great」

一人の友達が言った言葉。これが私達日本人が国際人になれない大きな理由であると思う。

私は五年間、アメリカのシリコンバレーという所に住んでいた。そこはグーグル社やアップル社をはじめとするIT企業の密集する地域で、世界中の多くの企業や人々が集まる、「世界の縮図」の様な所だった。当然私が通っていた学校も、インド、中国、アフリカ、ヨーロッパなど、様々な地域からやってきた子供たちから成る、「小さな国際社会」だった。

当時、私は友達からよくこんなことを問われた。

「せっかくアメリカに来たのに、なんで自分の国に帰るの。」

私はその言葉の意味がよく分からず、

「決まっているから。」

となんとなく答えていた。

しかしある日、一人の友達の放った一言が、私の心と頭を鋭く貫いた。

「僕は自分の国が嫌いだから絶対に帰りたくない。でも、君が帰りたいのは理解できる。

日本はいい国だから・・・。」

この言葉で、私が日本人であることが皆の疑問を解決してきたこと。そして、数年で母国に帰ると決めて渡米している人のほとんどが日本人であることに、改めて気が付いた。

ここに来る人々の多くは、安全でゆたか、幸せな生活を求めてやってくる。より良く生きたいと世界に目を向けている。

では、日本人はどうだろう。私たちにとって、最も楽で心地よい場所は、母国日本ではないか。もちろん完璧ではないが、命、健康、財産、権利をむやみに奪われるという危機感はずない。そこそこ安全で便利。衛生環境、経済活動も整っている。この様な生活の中で、私たちが海外に向けた強い関心を持つ機会は得られにくいのではないだろうか。幸か不幸か、

「Because Japan is great」

が、日本で多くの国際人を生むことを困難にしてきたと感じる。

他国への関心だけではない。私たちは自国の政治や歴史、宗教にもさほど興味が無く、日本について語れない。

アメリカ大統領選の時、私は大きなカルチャーショックを受けた。

★部活動や学校外活動	テニス部・厚生委員
★好きな科目	数学
★好きなことや好きなもの	レゴ・テニス・日本史
★将来の夢	建築士

「T氏が当選したら、僕たち家族はアメリカから追い出されてしまう。」

と真剣に悩む友達。

「僕はH氏を応援しているけど、君は。」

と雑談する小学生。私たちはこんな風に、友達と社会について語ったことはあるだろうか。

「国の動向が生活の安定を大きく揺るがすことはない。」この曖昧な安心が、私たちの自国に対する関心を弱くしている。しかし、国際交流の場では、異文化に関する話題はとても盛り上がる。日本についての知識を蓄えることは、私たちが国際人として踏み出す大きな力となる。

今、私には日本と世界で活動できる人になりたいという夢がある。

アメリカにいる時、日本の百円ショップの商品が学校で大人気で、特に消しゴムは安く消しやすいと評判でした。他にも多くの日本製品について聞かれる度、私は日本人である事を心から誇りに思い、日本の製品に込められた努力、知恵、使い手を思う心に感動した。

「世界に類のない日本の物づくりの精神、その優れた技術を、一人でも多くの人に届けたい。」こう願うことが、国際人を夢見て踏み出した私の初めの一步だった。

「あなたが想像する自分の未来。そこに異国の人の姿はありますか？」

最近、「国際人育成の為の英語教育改革」などの言葉を耳にしますが、まず改革すべきは、私たち自身の意識ではないか。日本を考え、世界を知りたいと思う好奇心。自分の夢を世界のフィールドにまで広げて描く想像力。これらを持ち、自分を奮い立たせることが、国際人を目指す原動力になると思う。

私たちの輝ける場所に
国境はない。





優秀賞 人生の幸せ

四日市市立朝明中学校3年

平 田 結 葉

私は、望まずとも「普通に生きられる」ということが「とても幸せなことだ」と思います。みなさんは、どう思いますか。幸せなことだと思いますか、それとも、幸せではないと思いますか。私が「普通に生きられることは、幸せなこと」と思うようになった理由をお話ししましょう。

みなさんは、きんいしゆくせいそくさくこうかしょう筋萎縮性側索硬化症という難病を知っていますか。私も、ついこの間までは知りませんでした。私たちが身体を動かすことができるのは、筋肉が脳からの信号をキャッチしているからです。この病気は、筋肉が、その信号をキャッチできず、次第に全身の筋肉が動かなくなるため、最終的に、呼吸することが出来なくなるという病気です。現在の医療技術でも治すことはできません。

この病気を知ったきっかけは、母の友人がその病気で、すでに余命が僅かということを知ったからでした。

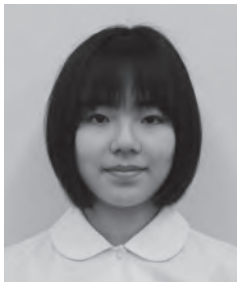
自分がもし難病にかかったら、死への怖さや人と違うことが嫌で、ふさぎこんでしまうと思います。難病を抱えた人たちは、その恐怖と毎日闘っていると考えました。ですが、ある難病を抱えた少女の思いは、私の考えとは違い、「困難はチャンスの扉、生きること自体が満足できる人生への道。そして、自身が抱えた難病は、自身の話を聞いてもらうためのギフト」というものでした。彼女は、難病を敵ではなく、味方にする事で、この大きな壁を乗り越えられたのだらうと考えました。彼女の生きることによって前向きな思いに触れたことで私は、難病を抱えた人たちの思いを心から考えてはいなかったことと、そうではない自分は幸せなんだと思っていたことに気づきました。けれど、今は違います。私は今、母の友人との出会いを通して、難病や難病を抱えた人たちの思いについて目を向けられるようになりました。そして、自分にできることをしたいと思っています。ですが、どうすればよいのか、わかりません。そんな時に、看護師である母が「今すぐにできることなんてあるわけない。だけど、大きくなって難病を抱えた人たちに寄り添えるような、受け入れてもらえるような人になることならできるよね。自分を磨くことは今からでも遅くないと思うよ。」と教えてくれたのです。そして、そのために、ボランティア活動をして、自分の考えを広げ、自身を深めたいです。

私はその第一歩として、多くの人に、難病や、その難病を抱えながら、今も生きている人

★部活動や学校外活動	ソフトテニス部、生徒会（副会長）
★好きな科目	国語
★好きなことや好きなもの	読書
★将来の夢	医療関係の仕事

のことを身近に感じてもらいたいと思い、この「中学生のメッセージ」に応募しました。今は、小さな積み重ねかもしれませんが、難病を抱えた人たちの色々な思いに寄り添えるような自分になるために、自分を広げ、どんな小さなささいなことも、深めるものとし、学んでいきたいです。





優秀賞

「働く人」は輝いている

四日市市立港中学校3年

宮原 彩花

「これほど相手の立場になって物事を考える仕事はない」

そう話して下さったのは、私が職場体験でお世話になった病院の看護師さんです。職場体験では、大変貴重な経験の数々からたくさんのことを学ばせていただきました。そのなかでもこの言葉は、聞いた瞬間、心にジーンと響くものがあり、今もその言葉を思い返すたびに、看護師さんの温かい声と、その場の感動が蘇ってきます。

私は、幼い頃から憧れていた医療の仕事を体験したくて、職場体験先に病院を希望しました。医療ドラマや病院で見る医師は、まるでみんなの命を救うヒーローのように思えて、とても興味のある職業でした。そして、希望通りに職場体験先が病院に決定したときには本当に嬉しくて、わくわくドキドキ、胸が高鳴っていました。

待ちに待った職場体験の活動は三日間あり、広い院内の見学、患者さんとのコミュニケーション、車椅子に乗る体験などのさまざまな活動を行い、主に看護師としての仕事を体験させていただきました。登校するのではなく出勤するのだという、慣れない感覚とも仲良くしながら過ごしました。

看護師の仕事を観察していると、患者さんと接するときにはいつも笑顔だ、ということに気付きました。そして、車椅子を動かすのが大変そうな患者さんがいれば、そっと車椅子を押してあげる、耳の聞こえにくい患者さんがいれば、大きな声でゆっくりと話しかける、というような光景をたくさん目にしました。このようなことは、看護師の仕事としては当たり前で小さなことなのかも知れませんが、私にはその姿がとても魅力的で輝いて見えました。

しかし、いつも多くの命と向き合っている医療の現場、病院では、私が最初に感じていた「わくわく」などという感情はなく、常に緊迫した空気が感じられ、患者さんと接するときの笑顔のなかにも、周りに広く視野を持ち、心を配り、油断することのない医師や看護師の姿がありました。

この職場体験で、今まで「働く」ということの本当の大変さ、難しさ、さらには素晴らしさを知らなかった自分が、いかに看護師という仕事を甘く見ていたか、言い方を変えたと、この仕事に対して自分が持っていた感情がただの好奇心にすぎない軽い気持ちだったのかを知る機会となりました。医師や看護師に必要なのは、患者さんへの優しさと笑顔だけではなく、コミュニケーション能力、幅広い多くの知識、時間が待ってはくれない現場での迅速な

★部活動や学校外活動	吹奏楽部・生徒会会長
★好きな科目	国語・音楽
★好きなことや好きなもの	読書・食べること
★将来の夢	医療に携わる仕事に就く

判断力や決断力などの、どんな事態にも対応できる力なのだと感じました。また、その力を育てて大きくしていくには、自らの努力、そしてときには仲間からの助けや支えがなくてはならないのだろーうと思いました。

そこで、看護師さんが話して下さった、

「これほど相手の立場になって物事を考える仕事はない」

という言葉の意味が、少しは分かったような気がしました。さまざまな病気や症状を持った患者さんの立場になり、その患者さんの心と体にどれだけ寄り添っていけるかを考えながら日々奮闘し、活躍している医師、そして看護師に私はこれからも憧れつづけ、いつの日か自分がその立場になれる日を夢見て、今、私にできることは、日々勉強を頑張ることと、思いやりの心をもってまわりの人に接することです。





優良賞

「救える命」～殺処分ゼロを目指して～

松阪市立大江中学校3年

奥 出 大 空

三重県だけでも一年間に犬や猫が一三〇〇匹以上殺処分されている。

僕は楽しい気持ちで外へ出掛けるのに、ペットショップの前を通ると悲しい気持ちになる。大小関係無く、どの犬や猫も可愛い。けれども、売れ残った動物はどうなるのか。そう考えるようになったのは、僕が小学校二年生だった頃、和歌山県にある『ワンライフ』という愛護団体から一匹の犬、チワワを譲り受けた時からだ。

幼なかった保育園の年長の頃から二年間、僕は「犬を飼ってほしい。」と親に言い続けた。小学校二年生になった時、母は真剣な顔で話し始めた。「ペットショップの犬は確かに可愛い。お金を出せば手に入る。でも、まるで物と同じように捨てられる子も沢山いる。」と。僕は母の話を聞き、一番ボロボロになっている犬を障害の有無関係なく迎えてあげようと強く思った。その後、母が以前から知っていた『ワンライフ』へ連絡し、犬を一匹、我が家の家族として迎え「大吉」と名付けた。予想以上に毛が少なく、足は変形しており、怯え方も酷かった。そんな「大吉」も今では目や口元が生き生きとしている。犬は人間よりも寿命が短い。それ故、あと何年生きてくれるだろうかと思う時があるが、僕が高校生になり、大人なっても命のある限り最後まで世話しようと思う。

最近のニュースで、四百匹の犬が過密飼育され、業者を刑事告発する方針と報道されていた。報道されないと知る事も少ない動物虐待。この悲しい報道を、より多くの人が忘れないで欲しい。しかし、身近には嬉しい事もある。それは、去年の五月、三重県津市に犬や猫の殺処分数ゼロに向けた取り組みの拠点「三重県動物愛護推進センター・あすまいる」ができたことだ。「あすまいる」とは「アニマル・スマイル」の意で、全ての動物に笑顔が広がるようにとの思いが込められている。そこでは譲渡会も開催されている。僕は『あすまいる』のことが気になり、五月の連休に見学に行った。保護されている犬達が元気に過ごしている様子を見て嬉しく思った。

僕が「大吉」一匹の世話をする中でも予防接種やノミ予防をしたり排泄など目を向ける所がいろいろある。世話が大変だと思ったことはないが、これが「あすまいる」などの施設のように何十匹となると一日中世話に追われることが想像でき、大きな動物愛護の精神で動物達を支えてくれているのだと気付く。

まだ生きられる命を人間の都合で殺処分という選択をされても、このような活動をしてい

★部活動や学校外活動	テニス部・生徒会会長
★好きな科目	数学
★好きなことや好きなもの	スポーツ・勉強・動物
★将来の夢	薬剤師

る人達のおかげで救われた動物が命を全うするその日まで安全な環境で暮らせるそんな犬や猫が一匹でも多くなることを願う。

以前、高校生が動物愛護センターの見学後に殺処分された後の骨が肥料になると知り、無念にも死んだ動物の骨をゴミとして扱うのではなく、土に返したい、また美しい花につなげたいと骨を自分達で細かくし土に混ぜて花を育てていた。骨はすごく固く、簡単には碎けないため、レンガを使用していた。高校生達が涙を流しながら作業をしている光景をテレビを通して見ていたが、僕も高校生の優しさに感動して涙が流れた。ただ現状に目を向けると周りで愛護センターへ動物を預けに行った人はいても、引き取るために行った人がいると耳にした事はない。ペットショップへ行く人は、その前にまずはパソコンからでも犬や猫の情報を知ることができるので愛護センターにも目を向けてほしい。その情報には健康状態や性格等の特徴がある。あと数日または数時間で命を奪われる犬や猫がいる現実と、入手法がペットショップで買うだけでないという事も知ってほしいし、動物達の里親になって家族として幸せに過ごしてほしい。そのためには、動物達と里親との出会いが必要不可欠だ。僕は普段から自治会長さんと言葉を交わすなど身近な存在となっている。次お会いしたら、回覧板に愛護センターの広報紙を入れてもらう等の依頼をしたい。そして地元の身近な人の中で『あすまいる』を訪問する人が増える事を望んでいる。また、地元だけでなく、松阪市や三重県といった広域でも、より多くの人に『あすまいる』の存在を知ってもらい、『あすまいる』の動物と里親が幸せになる社会の実現を願っている。





優良賞 香害について

津市立久居中学校2年

小澤 桜子

私は、中学一年生の夏に、制汗剤の強い匂いに悩まされました。学校では、制汗剤は、無臭のものを使うということが決められていて、先生からも、お話がありました。しかし、無臭のものがあまり販売されていないということもあり、多くの人は、匂いのする制汗剤を使っていました。複数の人が、違う匂いの制汗剤を使うことによって、匂いが混ざり、まるで、腐った卵のような悪臭が、更衣室や、教室に立ちこめていました。私は、その匂いを嗅ぐことで、吐き気や、頭痛がして、マスクが手放せない生活となりました。先生に相談して、注意をしてもらっても、それは、すぐには直りませんでした。

さて、みなさんは、香りの害と書く、「香害」という言葉をご存じですか？「香害」とは、「香りつき商品の成分である化学物質によって、健康被害を受ける人が急増している現象」を指す造語のことです。健康被害とは、「化学物質過敏症」や、「シックハウス症候群」「喘息」「香料アレルギー」などです。「化学物質過敏症」とは、少量の化学物質に反応して、頭痛や吐き気、思考力の低下、息苦しさが起こる病気のことです。なぜ、健康被害を受ける人が増加したのか。その原因の一つに、「スメルハラスメント」を気にしすぎることにあると、私は考えています。「スメルハラスメント」とは、汗の臭いや、加齢臭などで、不快感を与えることです。多くの人は、臭いで迷惑をかけないように、香りのついた柔軟剤などを使います。確かに、周囲のことを気遣うことは大切なことです。ですが、それは、周囲に吐き気や頭痛を与えてまで、しなければならないことなのではないでしょうか。柔軟剤のきつい匂いで健康被害を受けて、学校や会社に行けなくなったり、退職に追い込まれたりする人こそ、スメルハラスメントの被害者なのではないでしょうか。「香害」で被害を受ける人は、「わがままな人」「神経質な人」というレッテルをはられます。匂いごときで、と思う人もいるかもしれません。けれど、一日中、終わりの見えない吐き気や頭痛が続くことは、とても苦しいと思います。

「香害」は、誰もが加害者になり得ます。自分が、いい匂いだと思っていても、ある人には、悪臭だと感じられます。匂いの感じ方は、一人ひとり違います。柔軟剤を通常の二倍使用し、衣服への過剰な香り付けとすることで、もしかしたら、誰かが、生きづらさを感じるかもしれません。柔軟剤には、「周囲の方に配慮してお使いください」という注意書きがあります。それを見つけて、「気をつけよう」と思ったことはありますか？その注意書きを見て、気をつけようと思う人が、一人でも増えることで、生きづらさを感じる人は、少しずつ減っ

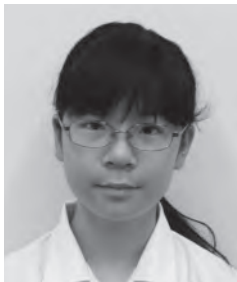
★部活動や学校外活動	吹奏楽部
★好きな科目	国語
★好きなことや好きなもの	読書・音楽鑑賞
★将来の夢	司書

ていくと思います。周囲の人に理解してもらえるだけで、心が軽くなると思います。個人の嗜好だから、自由ではないのかと考える人がいるのならば、その人に私は聞きたいと思います。なぜ、喫煙室というものが存在するのでしょうか？タバコの煙は害になると多くの人がわかっているからです。同じように、制汗剤や柔軟剤の匂いでも、健康被害を受ける人がいることを知ってほしいと思います。

今私は、制汗剤の匂いに、去年ほど悩んでいません。それは、今年のクラスには、強い匂いのものを使っている人が少なくなったからです。

もしかしたら、あなたの隣で、あなたのつけた匂いに苦しんでいる人がいるかもしれません。そのことを知って、他人事とは考えられないでほしいと思います。知って理解する。それが過ごしやすい世の中を作る第一歩ではないでしょうか。





優良賞

中高生が未来をつくるために

名張市立赤目中学校2年

河合 優 香

私の住んでいる百合が丘地域には、たくさんのボランティアの方々があります。約一五〇名のボランティアの方々が、百合が丘小学校で読み聞かせをしてくれたり、折り紙を教えたり、学習支援をしてくれたり、クラブ活動の手伝いをしてくれたりしています。他にも、毎日第一土曜日に百合小こどもクラブが行われています。そんなたくさんのボランティアの方々や多くの支援のおかげで、百合が丘小学校は二〇一六年に文部科学大臣賞を受賞しました。

私が、そんなたくさんのボランティアの方々の中から紹介したいのは、百合小こどもクラブのコーディネーターをしている畑行子さんと、市民センターの館長をしている畑和伸さんのご夫婦と、百合小こどもクラブ、百合が丘ジュニアキャンプカウンセラーについてです。

畑さんご夫婦は、ボランティア活動の中心となる存在で、たくさんのボランティアの方々とまとめてくれています。そして、たくさんのボランティア活動に積極的に参加されています。

そして、二〇〇六年に始まった百合小こどもクラブは、今年で十二年目を迎え、当初は二十人ほどだった参加者は現在一八九人と、始まった当初の約九倍にもなっています。そんなこどもクラブを支えているサポーターの人数は現在四十五人となりました。その中の二十二人は中学生と高校生です。また、こどもクラブでは、毎年八月には一泊二日の合宿、十二月にはもちつき、二月には巻きずし作りなど毎年こうれいの行事も多くあり、小学生は毎月の活動を心待ちにしています。巻きずし作りでは、小学校を借りて、長机を長い廊下に並べ、毎年約五メートルずつ長くしながら巻いていて、次は七〇メートルに挑戦します。そして、こどもクラブの目玉行事でもある一泊二日の合宿では、市民センターの前にたくさんのテントを、小学生がサポートしてもらいながら協力して自分達で建てたり、夕食を自炊したり、キャンプファイヤーをしたり、朝から散歩したりします。そんな合宿を中心となって盛り上げていくのが、私達百合が丘ジュニアキャンプカウンセラーです。

百合が丘ジュニアキャンプカウンセラーというのは、百合小こどもクラブのサポーターの中でも、中学生以上の「もっとたくさん活動したい!!」という人が集まってできたチームです。毎月第三日曜日をメインとして活動していますが、百合が丘の夏祭りや百合が丘小学校の運動会などの特別行事の時も活動しています。毎月行う内容はバラバラですが、ぶどう狩りをさせてもらったり、市民センターにフォトスポットとしてアンパンマンとその仲間を作った

★部活動や学校外活動	卓球部
★好きな科目	理科
★好きなことや好きなもの	読書
★将来の夢	ボランティアに関わる仕事をする

り、ごみ拾いをしたりしています。そんな百合が丘ジュニアキャンプカウンセラーは今、政府から注目されており、畑さんは国の人に活動内容などを説明しに行ったりしています。私は、この百合が丘ジュニアキャンプカウンセラーがとても大好きです。そして、ここに所属していることは、私のほこりです。

今の私の夢は、「百合が丘ジュニアキャンプカウンセラーのように、小学生を中・高生がサポートし、いつかその小学生が中・高生になった時、今度は今の小学生をサポートする」というように、自分達がしてもらった事を同じやり方で返し、そしてまたサポートしてもらった小学生が同じ事をする。そんな事が自然とできる地域にする」事です。そして、いつか私が畑さんの後を継ぎ、この活動を日本中に広め、お互いを思いやる心や、小学生が中学生、高校生の姿を見て、こんな人達みたいになりたいとあこがれることができるような関係をつくることです。

まだ私には、この活動を日本中に広める力も、人前で堂々と自分の意見を言う力もありません。

それでも、いつかそんな力をしっかりつけて、畑さんご夫婦のようにたくさんの人から尊敬される人になれるようにこれからもがんばります!!





優良賞

当たり前のことが当たり前でなくなること

四日市市立桜中学校3年

佐藤 萌 花

私は「コウノドリ」というドラマが好きで、毎回見ていました。ある回で、子宮筋腫を患っていると分かった助産師さんのセリフで、「お母さんになる人生と、お母さんにならない人生、何が違うのかな。」

というものがありません。このセリフを聞いた時、胸がしめつけられているような感覚に襲われました。一瞬、時間が止まったかのような感覚にさえなりました。何故このような感覚に襲われたのか、自分でも分かりませんでした。後から考えると、とても重みのある言葉だったのだと分かりました。

この子宮筋腫を患っている助産師さんは、症状が重く、生きる為に、子宮の摘出を勧められていました。でも、子宮を摘出するということは、同時に子供が産めないということも意味していました。結婚もしていない助産師さんにとって、自分もいつの日か出産することとは、当たり前のことだったのかもしれませんが。新しい、小さな命の誕生の瞬間に立ち合っている分、自分の出産についても、色々と思い馳せていたかもしれません。当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなる時が、突然やってきたのでした。私は「当たり前のことが当たり前でなくなる」ということに、とてもショックを受けました。今までの自分の人生で、当たり前だと思っていたことも、もしかしたら、何かの影響で当たり前ではなかったかもしれないと思うと、とても怖い気持ちになりました。

私はいつの間にか、何となくではありますが、自分の人生設計を立てていました。高校受験をして、晴れて高校生となり、勉強や部活を頑張り、憧れの助産師への道に進みます。結婚もし、子供にも恵まれ、大きくはないけど一軒家に住み、家族仲良く暮らしていくというものです。改めて考えてみると、本当によくある人生図だと思います。でも、突然、予期せぬことが起こってしまうかもしれません。病気を患い、子供に恵まれないかもしれません。事故に遭い、体が不自由になるかもしれません。お母さんが病気になって、私が看病して、進学できず、働くことになるかもしれません。当たり前だと思っていたことが突然、思いもしない形で失われる可能性があるのだと思い知らされました。

当たり前のことが当たり前でなくなることを、私は怖いことだと述べました。でも「当たり前だ」と思っていることは実は「当たり前ではない」のだから、今、当たり前だと思っていることに感謝しよう、とも思えました。自分の基準を、当たり前だと思われているところ

★部活動や学校外活動	バスケットボール部
★好きな科目	保健体育
★好きなことや好きなもの	運動すること
★将来の夢	助産師

に置くから、それを失うことに恐怖を感じてしまうのだと思います。当たり前だと思っていたことは、理想の状況なのだと思います、すべてのことに感謝する気持ちが芽生えるのではないかと、と思いました。教室でくだらない話をして笑ってくれる友達がいること、部活のメンバーで県大会ベスト4を目指して練習していたこと、「手抜きのお弁当でごめん」と言いながら、お弁当を持たせてくれるお母さんがいること、帰ったら「おかえり」とゲームをしながら待っていてくれる弟がいること、バスケができること、美味しいご飯が食べられることなど、全て有難いことなのだと思います。子宮を摘出した助産師さんもきっと、このように考え方を変え、新たな目標を見つけ、新たな一歩を踏み出したのだと思います。

これからは、当たり前のことが当たり前でなくなることを怖がるのではなく「当たり前のことを大切に思える人」になりたいと思います。私を支えてくれる人がいること、支えたいと思う人がいること、そして、今を生きているということ自体が「奇跡」なのだから、その「奇跡」を大切にして、一瞬一瞬を大事にしていきたいと思います。そうやって残りの中学校生活を楽しんでいけたらな、と思います。そして将来、生命の誕生という「奇跡」が生まれる場面に立ち合える、助産師の仕事に就けるように頑張っていきたいです。





優良賞

未来のロボットと私たち

暁中学校 3 年

龍 田 彩

テレビをつけると、ドラえもんが踊っていました。私はそれを見て、「ドラえもんが本当にいたらいいのに…」と思いました。ロボットの活躍が話題となっている今、「ドラえもんのようなロボットはいないのだろうか」という疑問が生まれ、A I ロボットに興味が湧きました。

調べていく中で思ったことは、私たち人間とロボットとの共存を考えていくべきだということです。

A I ロボットには、私たちの生活を支えてくれる良い点がたくさんあります。例えば、話し相手になってくれるペットロボットは、一人暮らしのお年寄りの方にとって、癒しを与える存在となっているようです。最近では、私たちの声に反応して、指示に従って音楽や情報を提供してくれる A I スピーカーも誕生しました。それは誰もが手軽に購入でき、簡単に使用することが出来ます。さらに、被災地の支援物資を人間が届けることのできない地域に、早急に届けることが出来るドローンや、今では使用されていることが普通になったお掃除ロボット、また、自動運転が可能な車なども開発されました。

このように A I ロボットは、私たちがより良い便利な暮らしをする上で、手助けをしてくれる素晴らしい機械だと思います。

その反面、ロボットは使い方によって人間に災いをもたらすことがあります。

例えば、A I ロボットが人間の代わりにいろいろな場所で働くようになることで、今後二十年以内には、現在ある職業のうち、半分以上がロボットに変わると言われています。それは、将来人間の働く機会が失われるということです。働くことができなくなれば、収入がなくなり、生活ができなくなります。

最近では、A I ロボットが医師国家試験に合格したことが話題になっています。将来、病気になった時に、ロボットに治してもらうことになるのかもしれませんが。どの場所に行ってもロボットがいる。そういったことを考えると、とても不安に思います。

また、イスラエルやロシア、イラクなどはロボットを戦争の兵器として利用しようと考えているそうです。戦争で利用されるということは、言い換えると、ロボットが人間を殺す道具になるということです。本来ロボットは、私たち人間を手助けしてくれるものとして開発されましたが、これからは恐れられるものになっていき、ますます世界が平和になる日は遠

★部活動や学校外活動	陸上部
★好きな科目	国語・英語
★好きなことや好きなもの	読書・音楽鑑賞
★将来の夢	自分の得意なことが活かせる職業

くなるのかもしれませんが。

人工知能の分野の専門家、レイ・カーツワイルさんは、このような予言をしています。「二〇四五年にA Iが人間の能力を超える」と。これは、A Iが人間から独立し、自らを再設計することで、人間がA Iをコントロールできなくなるということです。

何度も世界優勝を果たしたプロの囲碁棋士がA Iとの勝負に敗れました。その他に、チェス、将棋などのボードゲームでもA Iが人間を超えました。技術の進化はたしかに素晴らしいものですが、これがゲームでなく実際に人間とA Iが戦っていたのだとすれば、見方は全く異なります。

それでもなお、私はA Iやロボットには未来を感じています。能力の使い方を誤れば災いを引き起こすのは、なにもA Iに限ったことではありません。人間自身がまさにそうだからです。

恐ろしい未来を想定できるのも、人間の力です。想像力の限りを尽くして、今まで経験したことの無いことを思い描くことができるのが人間です。そうであれば、ドラえもんとのび太君の関係のように明るい未来を考えていくこともできるはずです。私たち人間の力を信じて、人間とロボットが共存していく未来をつくっていきたいと思います。





優良賞

「文字から伝わる気持ち」

紀北町立紀北中学校3年

東 舞 香

みなさんは最近、手紙を書いたことがありますか。スマートフォンやパソコンの普及によってメールやラインなどを利用して、連絡を取りあうことが多くなってきましたが、私は手書きの文字だからこそ、相手に伝わる思いや気持ちがあるのではないかと考えています。手紙をもらった時、その文字を見ると、書いてくれた人の、自分に対する思いを感じることができ、とても温かい気持ちになることがあります。落ちこんだ時に友達からもらう励ましの手紙を読むことで、もう一度頑張ろうという気持ちになります。また、色々な場面で渡される家族からの手紙も愛情を感じることがあります。手紙のように長い文章ではなく、たった一言のメッセージだけでも心が笑顔になります。思いがこもった手紙を大切にしまっておくと、後で何度も読み返すことができ、その時の思い出が鮮明によみがえる不思議な力があることが、私の手紙が好きな理由です。

なぜ、その様な不思議な力があるのかを私なりに考えてみました。手紙を書く時はまず、相手の事を一生懸命に考えます。相手の立場に立って、どうしたら自分の思いや気持ちをわかりやすく伝えることができるのかを真剣に頭の中を整理しながら、言葉を選び文章を書きます。そうすることで、自分の心が伝わるようにします。自分が今思っていることを伝えようとすることで、相手に素直な気持ちが伝わります。自分の素直な気持ちを伝えたいという思いで書くことで、相手に心が伝わりいつまでも思い出として残っていくからだと思います。手紙を書いてくれた人の事を想像して読むことも楽しみの一つです。相手と話す時よりもよく物事を考えて文字を書くことは時間がかかりますが、かけた分だけの価値が必ずあります。

私は、相手に自分の気持ちが分かりやすく伝えられ、自分の思いを素直に感じてもらえるようにできるだけきれいな文字を書くことができるようになりたいと思い、小学校三年生の時から習い始めた書道を今でも続けています。パソコンでも行書や楷書の字体を書くことはできますが、自分で書く文字のほうが書いた人の気持ちが伝わりやすく、顔が浮かんできます。書道は、丁寧な字が書けるようになるだけではなく、行書や楷書などの様々な文字を学ぶ事ができ、自分の心を表現し、相手に伝えやすくすることができるものです。日本には、ひらがな、カタカナ、漢字という三種類もある特徴的な文字文化があります。美しい文字を書くことができるようになると、思っていることや、考えていることがわかりやすく伝えることができるようになる気がします。

★部活動や学校外活動	文化部
★好きな科目	英語、美術
★好きなことや好きなもの	書道、エレクトーン
★将来の夢	人の役に立てる仕事に就きたい

ある日母が、「私の宝物を見せてあげる」と言って小さな箱を持ってきてその中身を見せてくれました。その箱の中には、小さい時から今まで私が母に送ってきた手紙や絵がたくさん入っていました。中を開いて読んでみると、笑えるほど下手な字でしたが、その文字の中には、その時としては全力で懸命に文字を書いている私の姿が思い浮かんできました。この手紙を私がパソコンで書いていたら、この姿は思い浮かばなかったかもしれません。そして、文字は成長することも感じました。

これから授業でパソコンの勉強が始まります。また、スマートフォンもほとんどの生徒が持っています。色々なことを調べる事も簡単にできます。写真を撮ったり、友達に連絡をしたり、電話をしたりすることも指先一本でできます。大変便利な道具です。生活をするにも、勉強をするにも、将来就職をして仕事をするようになってからでも、必ず使いこなさなければ不便を感じると思います。メールやラインを使つてのやり取りは、早く簡単に目で確認することができ、時間の短縮にもなります。もちろん私も毎日その機械に触りますし、よく利用もします。本当に便利です。

しかし、それでも相手に自分の今の気持ちや、感謝の気持ち、本当に伝えたいことを表現するには手書きの文字で書く手紙や、メッセージが大切だと考えます。私の心を込めた文字で書く文章を、これからも大切にしたいと思います。





優良賞

問われる責任、試される自分」

津市立橋北中学校 3年

星 も え

私は三年後、十八歳になる。

そう。選挙権が与えられ、社会の一員となる年齢だ。そんな私は大きな希望を持つと共に、不安を抱えている。

最近私は、政治に注目するようになった。以前の私にとって政治は、テレビや新聞で目にするだけの存在だった。しかし、選挙権年齢の引き下げに伴い、今では少し身近な存在となっている。日本の将来を担う身として、まずは自分の将来に責任を持つことから始めることにした。

皆さんは、日本の政治について、何か引っかかることは無いだろうか。私は、国の重要機関でたびたび起こる不祥事が気になった。不祥事等が起こると、悪い意味で政治に注目が集まる。その都度私は、「一大人としての責任すら持てないのか」「またか」と思う。私利私欲に走る大人達にも、私と同じ子供時代があった。一体いつからそうになっていったのだろうか。そんなことを考える。

連日報道されるのは、言い訳だらけの大人の姿だ。そんな大人の見苦しい姿、私は見たくない。人間、間違ふことはある。私はそこで、「潔く自分の過ちを認めたらいいのに」と必ず思う。けれどそれが出来ない理由は、本人にしか分からない。自分を守るための変なプライドにとらわれているのなら、正しい政治家としてのプライドはとっくに捨てている。憧れられる大人像とまるでかけ離れており、とても残念だ。「国民の為」という言葉を悪用しないで欲しい。

このような大人だけでなく、私は身近な大人を、前にも増して注目するようになった。家族・先生・働く人…。沢山の大人に支えられて私は生活している。「自分もこうなりたい」と尊敬することもあれば、どんなに身近な大人でも「こうはなりたくない」と思うこともある。大人が想像している以上に、私達中学生は、大人の姿を見ている

これまで散々言ってきた私も、まだ成長途中だ。自分の思い通りにいかないことも多々あり、失敗する。それが誰かにとっての「ああはなりたくない」かもしれないし、知らぬ間に誰かを傷つけているかもしれない。

相手の気持ちを上手にくみ取ることは、決して簡単ではない。それでも、相手の気持ちを考えることはできる。ほんの少し、自分の心にゆとりを持てばいいのだ。考えることを諦め

★部活動や学校外活動	吹奏楽部
★好きな科目	社会
★好きなことや好きなもの	クラリネット演奏、書道
★将来の夢	放送関係の仕事に就くこと

てはならない。相手を思いやる気持ちを忘れた時、それは孤立を悟る時だろう。

さて、今度は私の三年後への不安にスポットを当てたい。社会の一員として選挙に参加するということは、「正しい情報」を知る責任があるということだと思う。

その「正しい情報」を得る過程に私は不安を感じている。中学生が情報を得る方法として多いのは、テレビやインターネットではないだろうか。私もその内の一人だ。しかし、ここに落とし穴があった。テレビでは事態をあおるような報道がされたり、インターネットでは憶測による間違った情報が流れたりすることがあるのだ。そこで大切なのは「正しい情報」をいかに見極めるか。間違った情報に振り回されないか。個人の意思や意図を感じる情報には要注意だ。

「自分が投票しても変わらない」「誰が当選しても同じだろう」と自分で壁をつくることはとても簡単だ。しかし、それは自分に託された票を捨てたことにならない。そんなもったいないことがあるだろうか。

私は三年後、未来への一票が投じられる自分でありたい。





優良賞

過去に学び、未来を語ろう

四日市市立常磐中学校3年

前 田 晃 成

小学校二年生の頃、源頼朝の伝記を読み、日本の歴史に興味を持ち始めました。今では古い街並みや城へと興味が広がり、去年の郷土研究では、私の住む四日市の城について調べました。身近な所に城跡がいくつもあったことに驚きました。このように色々調べていくうちに、歴史能力検定があることを知り、応募パンフレットを手に入れました。そこには「過去に学び、未来を語ろう」と大きく表現が付けられていました。私はこの言葉に引かれ、「これはどういう意味だろう」「過去から学ぶとはどういうことか」「何を未来へ繋げるのか」と考えさせられました。これまでは、年代や人物、出来事など歴史を表面的にしか見ていなかったことに気づき、自分なりに少し視点を変えてみることにしました。夏休みに調べた郷土研究を読み返し、思いめぐらしてみると、城はその土地や支配者の権力の象徴であることに気づきました。権力を維持したり、拡大させようとして、戦へと繋がります。その陰では駆り出された農民や、多くの人たちが苦しんだことも、想像できます。そう考えると、城に対していつもと違う見方を持ちました、

このことを考えながら、現代の世界に目を向けてみると、今の時代も同じではないかと思いました。

「ここは自分の国の土地だ」といって争いが生じ、違う民族や勢力同士で意見がぶつかり、紛争になり、何らかの権力に反発して、テロが起こっています。このように、自分の側の考えを押し通したり、相手のことを考えなかったりすることで対立が起こり、戦争や紛争に繋がっているのではないのでしょうか。去年の流行語の「〇〇ファースト」という言葉から、「自分ファースト」という言葉が生まれたことを考えても、多くの人が中心に行動することは、当たり前になっているのかもしれませんが。こう考えると歴史は繰り返されているように思えます。でも、同じ失敗を何度も繰り返すのは、私たちの世代で何とか打ち切りたいものです。

もし自分に力があれば、戦争をなくし、難民になっている人を助け出したいです。よくニュースで、紛争地域の人がボートで命がけで、逃げようとしているのを見ます。本当にかわいそうに思います。自分の住んでいる所を追われ、必死で逃げて助かったとしても、自分の家もなく、全く違う環境の中で生きなければなりません。2017年のある報告によれば、難民の数は過去最高の6500万人とありました。なぜ大勢の人がこんなにひどい目に合わなければいけないのでしょうか。残念ながら、この現実を知りながら私には何もできません。

★部活動や学校外活動	卓球部（副キャプテン）
★好きな科目	社会科・英語科
★好きなことや好きなもの	歴史・城巡り
★将来の夢	人の役に立つ仕事をしたいと思います。

では中学生の私に何かできることは、ないでしょうか。争いの原因となる自分の考えを押し通すことや、自分中心になるのではなく、相手の気持ちになって思いやりを示すこと。また自分がされて嬉しいことを相手にもすること。これらは小さな事かもしれませんが、今自分にできる大切なことだと思います。そして「過去に学び、未来を語ろう」とあるように、このことを友達とも話し合い、輪を広げてみんなで心掛けていくな、平和な世界が少しずつ生まれるのではないのでしょうか。

世界中を平和にする事はできませんが、まず、身近な所から平和を作りたいと思います。これからも過去の歴史から何を学べるのかを考え、考えたことを少しずつ実行していきたいと思います。これが私が考える「過去に学び、未来を語ろう」ということです。





優良賞 「団結と抵抗」

セントヨゼフ女子学園中学校3年

向 井 天 音

私は、テレビに映る光景に目を疑った。二〇一八年、映画とテレビドラマに与えられるゴールデングローブ賞の授賞式では、例年色鮮やかできらびやかな衣装を着た人々が、今年は皆真っ黒な衣装を着ていたからだ。今、業界にはびこる性差別に対抗するTime's Upというムーブメントが広がっており、その一環としてこのような黒い衣装を着たそうだ。

その事を知ったとき、私はこれまでに感じた「もやもや」を思い出した。やりたい事や興味あることを「女の子だから」という理由で周囲の人々に反対されていた友人や、男女に分けて「女の子はこっちが好きでしょう」と言って押しつけてきた人たちのことだ。そういった人たちは、知らず知らずの内に「私・あなたは〇〇だから、こうあるべき」という概念に捕らわれているのではないか。

たしかに、そういった事を言うのは、悪意からではなく、「あなたのためだから」「危険だから」という親切心からだという人も中にはいるだろう。しかし、「あなたは〇〇だから」という理由による押しつけに苦しんでいる人もいる。日本の社会において、男性は強くたくましい存在で、女性はしとやかで弱い存在とされているが、はたして本当にそうだろうか。私は、社会にはこのステレオタイプの男性と女性しかないわけではないと思う。しかし、現実ではいまだに「女の人は弱いから」と言われ仕事が無かったり、「男の人は強いから」と言われ頼られてばかりの人がいる。このように、先入観は不当な扱いを生むことがある。これは差別にあたるのではないか。そして子ども達は、その差別が蔓延する中で育つ。その子ども達がどんな大人になるかは想像がつくだろう。この悪循環を断ち切るには、まず大人と、やがて社会の担い手となる私達が見本を示すべきだ。

古来から続く根強い先入観を壊すのは難しい。でも、差別に対抗するムーブメントが広がる今なら、古い先入観を捨て、自分らしく振る舞うようになる人が増えるかもしれない。一人でノーを言うことは難しいけれど、何人もの人々が団結すれば、抵抗できるはずだ。また先程のゴールデングローブ賞授賞式で女性だけではなく男性も、黒い衣装を着ていたように、色々な立場の人が団結するべきだと思う。今はそうやって頼らなければ抵抗は弱いかもしれないけれど、いつか差別が無くなる未来では、誰もが自立し、強い力を持っているかもしれない。

私は、グローバル化が進む日本に必要なのは「だれとも共存できる社会」だと思う。アパ

★部活動や学校外活動	ハンドベル部
★好きな科目	国語・英語
★好きなことや好きなもの	映画鑑賞・読書
★将来の夢	世界の色々な国へ行くこと

ルトヘイトのように、差別される人々をひとまとめにして別に置くのではなく、男性も、女性も、有色人種も、白色人種も、LGBTQsも、一つの社会で暮らしてほしいと思う。また、社会は、るつぽのように様々な人を溶かし合って一つにするのではなく、サラダボウルのように、色々な野菜があるように人々は一人一人個性を出し合い、それを認め合うことが大切だと思う。これこそが、差別をなくす第一歩ではないだろうか。金子みすゞの詩のように「みんなちがって、みんないい」と決して傷つけあうことなく、互いの存在価値を認めあうことで、社会はよくなると思う。

ここまで私の述べてきた「理想の社会」を「ありえない」「不可能だ」と思う人もいるかもしれない。でも、実現するかどうかは、一人一人の行動次第だと思う。あなたは何をするべきか。





優良賞

ボランティアを通じて知ったこと

多気町立勢和中学校3年

村 田 桜 良

「積極性があるということは、素晴らしいことだ。自ら考え、行動できているからだ。」私がこんな風に考えるようになったのも、あるボランティアに参加したからだ。

二〇一六年六月、私が中学一年生のときに参加したあじさい祭りのボランティア。そのときに私は、熊本地震支援チームに加わった。熊本の名産品などを紹介し、それらを販売したり、復興支援のための募金活動をしたりするなどのボランティアチームである。たくさんの人が募金をしてくれた。通りかかったおばあさんにも「がんばってね」と言われて、とても嬉しかった。また、来てくれている人たちが笑顔になってもらうために、ダンスも二曲踊った。そのときに私は、ボランティアに参加して良かった。と思えた。

それまでの私は、ボランティアは現地に行かなければ、できないものだと思っていた。しかし、「今」の状況を写真や言葉を使って伝え、たくさんの人に熊本の「今」を知ってもらうだけでも、大きなボランティアになると知ることができたし、参加したことで感じることもできた。この経験をしてから、私の中で何か周りの見え方が変化してきた。

ボランティアではないが、私が所属している吹奏学部では、毎年、ささゆり苑という介護施設を訪れ、演奏する。楽器を通して、おじいさんやおばあさんと、お話しもする。また、演奏しているときに、口ずさんだり、手拍子をしてもらったりする。そんなときに、嬉しいことは、笑顔で楽しそうにきいたり、お話しをしてくれることだ。「どこに住んでるの」、「その楽器は何キログラムあるの」など、たくさん質問してもらう。そして帰るときには、「また来て演奏してな」と言ってくれる。毎年、そう言ってもらえると、家族が増えたように思える。

こんな風に誰かとふれ合う場があるということは、勢和中学校にとっての宝だと思う。もし、勢和中学校主催のボランティア活動がなければ、私は積極性の大切さや、ボランティアに参加することで得られる感動を知らないまま過ごしていたかもしれない。そう思うと、ボランティアに参加しやすい環境とその機会を与えてくれた勢和中学校がとても誇らしくなった。

年々、勢和中学校生徒のボランティア参加率は上がっている。けれど、その参加している人たちの中にも「この子がこれにするから」「これなら楽できそうだから」と考えて参加している人がいるかもしれない。そんなときに、改めてよく考えてほしいのは、どうしてボランティアをするのか、ということだ。もちろん「自分がした」という満足感を得ることも大

★部活動や学校外活動	吹奏楽部
★好きな科目	国語・社会・音楽
★好きなことや好きなもの	ピアノ・読書
★将来の夢	中学校教諭

切だと思う。けれど、訪れてくれているお客さんに楽しんでもらったり、被災地の人が早く元の生活に戻るように、現場の本当の状況を伝えたり、「誰かのために動く」ということが、ボランティアの本質だと思う。この本質を大切にすることによって、ボランティア活動本来の満足感が得られるし、より活動をしっかりできるようになる。

今、自分にできることをする。私が、この考え方が大切だと思ったのも、担任の先生との出会いのおかげだと思う。先生は、ボランティア精神が旺盛な人だ。自然災害が起これば迷わずとんで行く。一度だけではなく、何度も何度もその場所を訪れて、現地の人と交流するなど、現地の人々の本音を知っている人でもある。そんな先生と出会った四月、熊本地震が起きた。私たちは全員で、熊本へメッセージを書いたり、支援物資を送った。そのときに、「思い立ったらすぐに行動」がどれだけ凄いことかを知った。先生との出会いがあったから、行動することの大切さやボランティアをすることによって得ることができる楽しさ、嬉しさ。そして、感動を知ることができた。だからこそ、私は、私が感じたこの思いを伝えていかなければいけないと思った。

ボランティアは人と人とのつながりをつくり、そのつながりが人を幸せへと導いていく活動です。ボランティアをしようか迷っている人たち、私と一緒にボランティアをしませんか。自分のできることをできる範囲でいいんです。少しでも早く行動しましょう。



審査委員の皆さま

審査委員長	駒田 美弘	国立大学法人三重大学 学長
審査委員	間野 丈夫	三重テレビ放送株式会社 取締役
	倉田 幸則	津市教育委員会 教育長
	中川 克巳	三重県小中学校長会 幹事（津市立東橋内中学校 校長）
	岡本 諒志	三重県私学協会（桜丘中学校 教諭）
	喜田 健児	三重県教職員組合 中央執行副委員長
	田中 功	三重県子ども・福祉部 部長
	水元 正	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長



審査委員の講評 (順不問・敬称略)



【審査委員長】 駒田 美弘 (国立大学法人三重大学 学長)



中学生のメッセージ2018 (第40回 少年の主張 三重県大会) には、三重県下の中学校71校から10,166名の中学生の皆さんが、自分自身で「テーマ」を選び、日頃感じていることや考えていることを書き綴った作文を応募されました。その中から、14人の方が、最終審査の場でそれぞれの主張を話されましたが、いずれもすばらしい発表でした。作文のテーマは、社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案、身の回りの出来事や友達との関わり、テレビ、新聞などで報道されている問題、大人や社会の出来事に対する意見・提案など、多岐にわたっていました。凄まじい速度で変化をする現代社会の中で、中学生の皆さんも時として将来に不安を感じ、自分の本当にやりたいことを見つけることができずにいることも多いように思います。このような時代にこそ、自分自身の「志」をもう一度考えてもめることはとても大切なことですし、社会の人々も未来を担う中学生の意見にしっかりと耳を傾ける必要性を強く感じます。

審査委員の総評

発表された14名の作文に関する審査委員の主な総評としては、

- 大人では気づかない中学生らしいテーマが多く、中には手厳しい指摘もありました。
- 身の回りのテーマだけでなく、社会の出来事にも広く目を向けていることに感心しました。
- 一直線の作文、論旨は中学生らしく感じますが、さらに多くの情報、多様な価値観に基づいたものの考え方も述べていただいても良いのではなんでしょうか。
- 文字は審査対象外ですが、丁寧に書かれている方が読みやすく好感を持ちました。
- 担当の先生の手が過度に入っていない、自分の思いの詰まった文章が多かったように思います。

審査委員の主な意見 (発表順)

①「『救える命』～殺処分ゼロを目指して～」(奥出 大空 くん)

障がいを持った犬との出会いを通して、かわいい犬や猫は健康に生きていても突然飼う人の都合で明日が無くなることへの疑問と怒りを感じ、殺処分ゼロへの協力や動物愛護の心が大切だと主張されました。最初の発表者のため、とても緊張していたのではないかと思います。ひとつひとつの言葉を丁寧に話されました。動物に思いやりを持って接するという優しい気持ちがよく伝わってきました。

②「香害について」(小澤 桜子 さん)

香りつきの商品の成分による健康被害：香りによる害(香害)の体験から、知らないうちに隣の人を苦しめていることがあるかもしれないと述べられました。落ち着いて、はきはきとした言葉で、会場に目を向けながら、抑揚、強弱をつけて発表されましたので、主

張が会場の多くの皆さんに届いたように思います。

③「中高生が未来をつくるために」(河合 優香 さん)

ボランティア活動の大切さ、すばらしさを、ご自分の体験をもとに主張され、自然に、お互いが助け合うことのできる地域社会にしたいという強い思いが伝わってきました。緊張されていましたが、文章の最後まではっきりと聞き取れる発表でした。自身の体験に基づくお話でしたので、説得力を強く感じました。

④「僕たちが国際人になれない理由」(斎木 亮吾 くん)

5年間の貴重なアメリカ生活を通じて、日本をしっかりと理解すること、世界を知りたいと思う好奇心、夢を世界にまで広げる努力が大切と主張されました。紹介された時の「はい」の返事が大きな声でした。聴いている人々を説得しようという気持ちが伝わる力強い発表でした。将来は、グローバルに活躍していただくことを期待したいと思います。

⑤「当たり前のことが当たり前でなくなること」(佐藤 萌花 さん)

当たり前のことが突然失われてしまうことに恐怖を感じる。当たり前のことが、実はとても大切で幸せなことと気づかされたと話されました。視線を右左に向けながら、一生懸命に自分の主張を発表されました。将来は助産師さんになりたいということですので、努力して夢を叶えていただきたいと思います。

⑥「未来のロボットと私たち」(龍田 彩 さん)

未来のAIロボットは、社会にとって役に立つすばらしいものであると思うと同時に、恐怖を覚えることもあると話されました。はきはきとした、とても元気な発表でした。情報科学の進歩は著しく、大きな教育分野、産業分野になっています。人間とロボットの共存する未来創りに活躍していただくことを期待したいと思います。

⑦「明るい未来をめざして」(西井 萌々花 さん)

18歳選挙権が始まっているにもかかわらず、政治が身近なものであるとは感じられないと指摘され、しっかりと意見を持って未来を創っていきたくないと主張されました。視線を会場の左右にむけ、身振り・手振り、手作りのアンパンマン投書箱を使いながら、言葉の抑揚をつけて会場の人々に語りかけられました。声の大きさ、話す速度、表情も、その時点での話の内容に合わせて話されましたので、発表者の気持ちがよく伝わってきました。

⑧「文字から伝わる気持ち」(東 舞香 さん)

大好きな手書き文字の魅力を主張されました。パソコン、スマートフォンでは伝えきれない自分の気持ちを表現するためには、手書きの文字が大切だと話されました。視線を左右に向けながら静かに語りかける、やさしさのあふれる発表でした。作文の一文字一文字もとても丁寧に書かれていて、とても読みやすかったです。

⑨「人生の幸せ」(平田 結葉 さん)

難病と向かい合って生きる人との出会いから、病気と向き合うことには価値があると思うと同時に、普通に生きられることの幸せも感じると話され、今後は、人生の中で自分自身が挑戦したいことを探していきたいと述べられました。落ち着いた発表で、手話も交え

て、会場の皆さんに語りかけるように話されました。

⑩「問われる責任、試される自分」(星 もえ さん)

18歳選挙権が認められたことを契機に政治について考えるようになり、様々な大人たちの不祥事が目につくと厳しく指摘されました。そして、正しい情報を見極め、一票を投じたいと話されました。とても力強い、しっかりとした決意の伝わる発表でした。

⑪「過去に学び、未来を語ろう」(前田 晃成 くん)

古い町並みやお城の研究を進める中で、その地域には戦いの歴史があったことに気付くとともに、現在も世界のどこかで続いている紛争の悲惨さを述べられ、平和の大切さを考えていきたいと話されました。身振り、手振りを交えての一生懸命の発表でした。とても好感を持ちましたし、「ご清聴ありがとうございました」という最後の言葉も良かったと思います。

⑫「『働く人』は輝いている」(宮原 彩花 さん)

病院での職場体験で医師・看護師さんの魅力的な姿を目にして、働くことの大変さ、医療現場の厳しさを感じるとともに、将来は看護師さんになるという志を持ったと話されました。身振り、手振りを使った発表で、強い決意がよく伝わりました。すてきな看護師さんになっていただきたいと思います。

⑬「団結と対抗」(向井 天音 さん)

テレビに映された様々な差別、規制に対する抗議行動を観たことを機会に、サラダボールの中のいろいろな野菜のように、一人一人の個性、互いの存在価値を認めあうことが大切と話されました。視線を左右に向けながら、はきはきとした口調で発表されました。

⑭「ボランティアを通じて知ったこと」(村田 桜良 さん)

学校でのボランティア活動に参加して、その大切さ、楽しさ、感動を直接感じ、その思いを、多くの人にしっかりと伝えていきたいと述べられました。とても元気な発表で、積極的に行動することの大切さがよく伝わりました。

選ばれた14人の皆さんの発表は、いずれも素晴らしいものでした。緊張している様子も好感が持てましたし、身振り、手振り、手話をまじえながらの発表も在りました。最優秀賞1名、優秀賞3名、優良賞10名をそれぞれ選ばせていただきましたが、14名の皆さんの評価点は、いずれも高く大接戦でした。発表された皆さんは、自分の意見を述べることの大切さをあらためて感じられたと思いますし、たくさんの人の前で発表したという経験は、2018年夏の忘れられない思い出になったものと思います。

最後に、主催者の公益財団法人三重こどもわかもの育成財団、津地区中学生のメッセージ実行委員会、独立行政法人国立青少年教育振興機構をはじめ、運営に参加・協力をいただきました多くの皆様方に、中学生のメッセージ2018（第40回 少年の主張 三重県大会）が盛会に開催をされ、素晴らしい成果をあげられましたことを心からお喜び申し上げます。

【審査委員】 間野 丈夫（三重テレビ放送株式会社 取締役）



「中学生のメッセージ」審査委員は4回目でしたが、今回は自分の採点と全体の結果が大きく違っていました。私が上位の点をつけても下位になった生徒が何人もいました。逆に中位であっても上位に入った生徒もいました。「自分の見方って一般とはずれているのかなあ」とも思いました。でも、私なりに作文を緻密に読み込み、生徒の気持ちを心で感じようと努めたつもりです。以前の大会でも、上位入賞しなかった生徒の方に、私の心を強く揺さぶる発表が少なからずありました。私たちが聴くのは、全参加者の中でほんの一握りの生徒の発表にすぎません。選ばれなかった生徒の中には、荒削りながらも鋭く心に刺さるような作文がきっとあったと思います。たとえ評価は高くなかったとしても、誰かの心にきっと届く。そう信じてメッセージをつづり続けてほしいと思います。

【審査委員】 倉田 幸則（津市教育委員会 教育長）



発表者の皆さん大変お疲れ様でした。大勢の人の前しかもステージ上での発表はとても緊張したことと思います。それも貴重な経験だったと思いますが、作文を書くときに、話題を考え、それについていろんな観点から考えを巡らせたことは、きっと今後の皆さんの成長につながっていくものと思います。

これからも、身の回りで起きるさまざまなことや、人としてどう生きていくかなどについて、自分なりの考えをもつということを大切にしていってください。そのことが皆さん自身の幸せや周りの人たちの幸せにつながっていくことと思います。

最後になりましたが、運営に協力していただいた中学生の皆さんや関係者の方々、また素敵な演奏をしてくださった東橋内中学校吹奏楽部の皆さん、本当にありがとうございました。

【審査委員】中川 克巳（三重県小中学校校長会 幹事〈津市立東橋内中学校 校長〉）



「中学生のメッセージ2018」に県内各市町から選ばれた14名の中学生が、新鮮な感性とさわやかな態度で思いの内を力誠心誠意語る素晴らしい大会でした。どの発表内容も聞き応えがあり、特に人とのつながりを大切にした発表では、物事を多面的な見方や広い視野で捉え、多くの人々が見落としがちになっている点を焦点化することで、自らの生き方を問い直すものでした。

また、スマホやAIなどの技術革新における課題や「生命」と向き合う内容については、真直ぐな想いで語っており、聴衆の全てが共感を得たように思えました。

いずれの発表も、中学生らしい鋭い感性で真剣に物事を捉え、自分の考え方や行動を見つめなおしたり、周囲の人に思いを重ねたりすることで価値観を再編成させるとともに、将来の自分のあるべき姿や理想の社会の実現に向け、未来を切り拓いていこうとする強い決意が伝わってくるものでした。

最後になりましたが、この大会の運営に協力をしてくださいました中学生の皆さんに心から感謝申し上げます。

【審査委員】岡本 諒志（三重県私学協会〈桜丘中学校 教諭〉）



今回の大会に審査委員として携わり感じたことは、参加者の皆さんが自信に満ち溢れ、堂々と発表していたことです。中には身振り手振りを交え全力で主張し、聞き手が見入ってしまうほどの発表をしてくれた生徒もあり、中学生の澁刺な姿を見て元気をもらえたような気がします。また、テーマにおいても『AI』『香り』『ボランティア』『責任』などの話題を盛り込んだ、どれも中学生らしい主張であったと思います。中には私たち大人がハッとさせられるような主張もあり、改めて大人として考えさせられる大変貴重な機会となりました。私自身の中学生時代を振り返っても身近な話題についてここまで深く考えたことはなかったですし、まさか主張することは絶対にありえなかったと思います。今回発表したことを誇りにし、今後もますます成長して行って下さい。

【審査委員】喜田 健児（三重県教職員組合 中央執行副委員長）



「自分の夢を世界のフィールドにまで広げてイメージする」

「相手を思いやる気持ちを忘れた時、それは孤立を悟る時だろう」

「自分で人生の挑戦を探し、それをチャンスにする」

14人の中学生のメッセージは純真で、「明るい未来」に垂直に伸びているように感じました。その垂直性は、大人社会の不合理性を鋭く指摘するだけでなく、それを改善するための提言を大人にも若者にもしています。そして何よりも一步一步、力強く歩み出しています。その垂直性に触れたとき、世界を平和に導く中心にいるのは子どもたちであり、それをアシストするのが大人であり政治の役割なのだろうと…、それがはっきりと見えたように思います。本日発表してくれた子どもたちによって、一点の光と希望を見出すことが出来ました。

この大会に関わってくれたすべての中学生の皆さんに、心よりお礼を申し上げます。

【審査委員】田中 功（三重県子ども・福祉部 部長）



「社会をよく見ているな。」「我々、大人は見られているな。」

これが、率直な感想でした。

また、自信と緊張の中、ひたむきにメッセージを繰り出す姿に大きな感動を覚えると共に、将来への希望の光が見えました。

特に、記憶に残る言葉は「Because Japan is Great」。

私自身、先人に感謝しつつも、皆さんと共に共生社会づくりに取り組んでいかねば、発表者の方々からほんの少しでもリスペクトされるようにと思います。

最後に一言。大会運営を支えてくれた中学生たち、事例発表者、JAZZオーケストラの素晴らしい演奏者たち、この時間を共有できたことを心から感謝申し上げます。

【審査委員】 水元 正（公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長）



今年も、10,166点の中学生のメッセージが応募され、ありがとうございました。

感じられたことは、中学生の皆さんが自分の意見、気持ちを発表することに重きを置かれて、私はこう思う、こうする。将来はこうしたいと具体的に力強く訴えたことが良かったです。

中学生という思春期、希望、悩み、具体的にどうすればよいか分からない時期だと思いますが、自分は何をしたいかを正々堂々としっかりとした発表をしてくれました。自分の体験から言いたいことを、文字にして、自分の口から発する。非常に大事な事です。

また、この発表会を企画、運営してくださった青少年関係者の皆さん、津市内の中学生の皆さん、音楽を演奏して盛り上げていただいた皆さんに心から感謝申し上げます。



大会概要

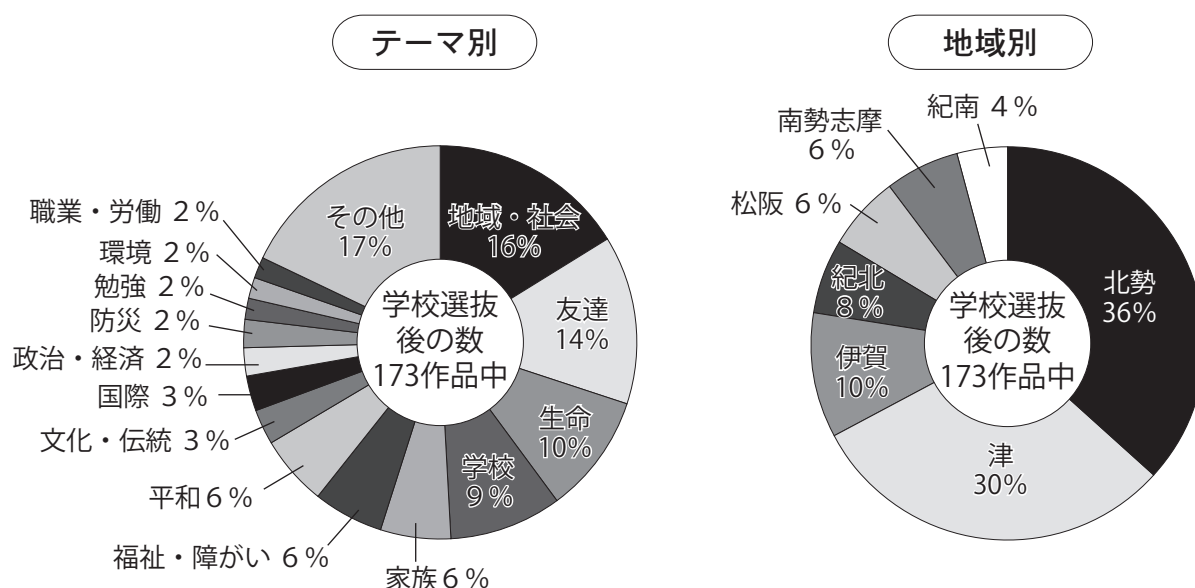
1 応募の状況

(1) 応募者数

地 区 名	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
北 勢	6,717	3,772	7,985	5,177	4,131
津	462	327	766	845	2,762
松 阪	533	534	545	534	536
南 勢 志 摩	247	255	226	3,590	601
伊 賀	1,835	2,009	1,926	2,052	1,595
紀 北	360	291	303	286	250
紀 南	197	697	170	147	291
計	10,351	7,885	11,921	12,631	10,166

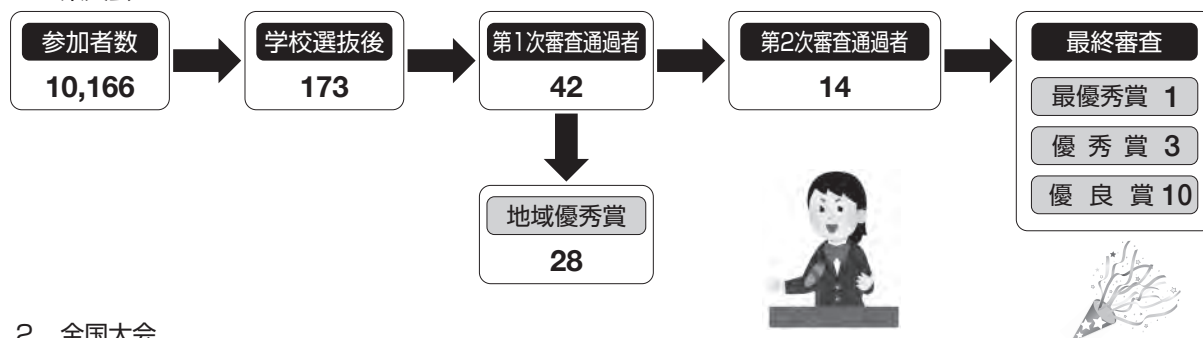
応募作品のテーマ・地域別の内訳

応募点数10,166の内、学校における選抜を受けて
当財団に提出された173作品の内訳です。

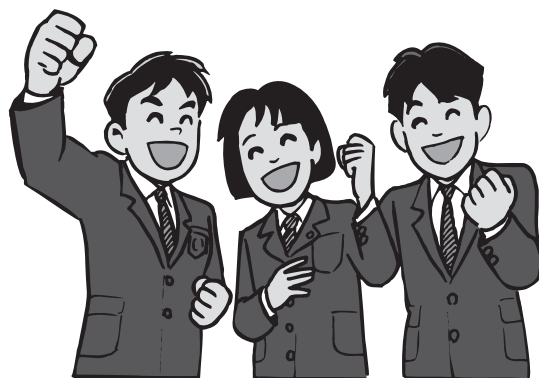
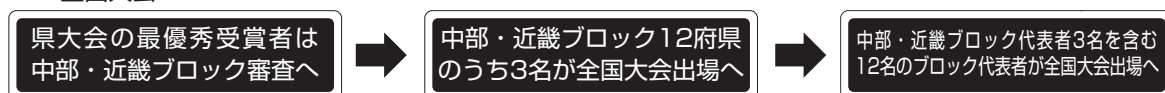


(2) 選考の過程

1. 県大会



2. 全国大会



2 地域優秀賞受賞者一覧

No.	学 校 名	学年	名 前	タイトル
1	四日市市立港中学校	3	にし西 かわ川 菜々子	ダメな事をダメと言えるように
2	四日市市立三滝中学校	2	いし石 かわ川 ひ陽那菜	東日本大震災と私たち
3	四日市市立大池中学校	3	や矢 だ田 けい恵 と都	僕にとっての走ること
4	四日市市立三重平中学校	3	ひら平 やま山 ゆう優	東日本大震災の教訓を生かして
5	四日市市立羽津中学校	2	みや宮 もと本 あ紅 かり里	守破離の道
6	四日市市立桜中学校	3	か加 ど戸 菜々み海	いじめの温床
7	四日市市立桜中学校	3	にし西 むら村 もも桃 か香	なぜ車は止まらない？
8	暁中学校	3	きた北 おか岡 にこ	「伝える」ということ
9	鈴鹿市立鈴峰中学校	3	くら倉 ち地 ゆ祐 ら来	私の一日
10	鈴鹿市立鈴峰中学校	3	なか中 むら村 ゆう友 き紀	モータースポーツの鈴鹿
11	津市立豊里中学校	3	う宇 だ田 かず和 み未	「感謝を忘れずに」
12	津市立久居中学校	2	なか仲 やま山 ゆう侑 か花	日本に訴えたいこと
13	津市立久居西中学校	2	さか坂 もと本 ち智 はる春	楽しい未来を願って
14	津市立みさとの丘学園	9	か川 わい合 すず涼 み水	「行動するのに必要なものとは」
15	三重大学教育学部附属中学校	1	か加 とう藤 は葉 おん音	アイさん
16	三重大学教育学部附属中学校	2	た田 なか中 あや綾 ね音	私だけの答えを探して
17	セントヨゼフ女子学園中学校	3	くら倉 た田 み美 ゆき雪	「日本を幸せにしよう」
18	多気町松阪市学校組合立多気中学校	2	にし西 むら村 か香 りん凜	心地よく生活するために
19	伊勢市立小俣中学校	2	よし吉 だ田 ふう風 か花	トムのおじいちゃん
20	伊勢市立小俣中学校	3	まえ前 だ田 み美 ゆき幸	素直になれない自分
21	皇學館中学校	3	たに谷 みず水 あや彩 の乃	「ありがとう」ってありがとう
22	名張市立赤目中学校	3	いし石 べ部 か花 りん林	魔法の言葉
23	名張市立桔梗が丘中学校	2	かめ亀 ざわ澤 こ瑚 な奈	約千四百年を彩る鳥梅
24	名張市立南中学校	3	いそ磯 べ部 ま真 な菜	スマホ依存症について
25	紀北町立赤羽中学校	2	か加 とう藤 こと琴	SNSの使い方
26	紀北町立潮南中学校	3	とり鳥 かい飼 すみれ	出会いから学んだこと
27	紀北町立三船中学校	3	にし西 むら村 こう亘 た太	「本当の自由とは」
28	紀宝町立矢渕中学校	2	てら寺 もと本 なお直 ひろ弘	感謝

3 学校奨励賞受賞校一覧

No.	学 校 名	No.	学 校 名
1	桑名市立陵成中学校	20	津市立美杉中学校
2	四日市市立中部中学校	21	津市立みさとの丘学園
3	四日市市立橋北中学校	22	三重大学教育学部附属中学校
4	四日市市立港中学校	23	松阪市立大江中学校
5	四日市市立塩浜中学校	24	多気町松阪市学校組合立多気中学校
6	四日市市立富洲原中学校	25	多気町立勢和中学校
7	四日市市立笹川中学校	26	伊勢市立小俣中学校
8	四日市市立西陵中学校	27	皇學館中学校
9	四日市市立保々中学校	28	鳥羽市立加茂中学校
10	四日市市立三重平中学校	29	伊賀市立柘植中学校
11	四日市市立西朝明中学校	30	伊賀市立霊峰中学校
12	四日市市立楠中学校	31	名張市立名張中学校
13	鈴鹿中学校	32	名張市立赤目中学校
14	津市立西橋内中学校	33	名張市立桔梗が丘中学校
15	津市立橋南中学校	34	名張市立南中学校
16	津市立西郊中学校	35	尾鷲市立輪内中学校
17	津市立豊里中学校	36	紀北町立赤羽中学校
18	津市立芸濃中学校	37	御浜町立御浜中学校
19	津市立香海中学校	38	紀宝町立矢測中学校

※学校奨励賞は、積極的に応募に取り組んでいただいた学校(全校生徒の50%以上)が受賞されました。

大会メモリアル

津リージョンプラザお城ホール 2018.8.26

当日の大会会場



9:00 実行委員会の皆さんが集まりました。



運営協力中学生の打ち合わせ



運営協力中学生による受付



最初は不安もあったし緊張したけど、よい経験ができたと思う。受付をしているとき、後ろでスタッフの方が支えてくれてすごく心強かった。

運営協力中学生による案内



この活動を通して、子どもたちは、「自分たちも数多くの人に支えられていると実感できたようです。ありがとうございました。」

11:00 緊張の中、発表者リハーサル



13:00 開会
落ち着いて堂々とした司会



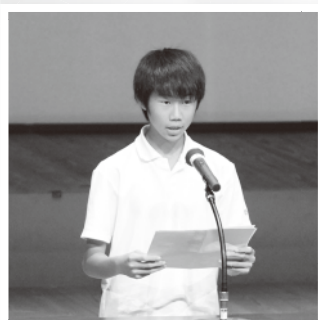
主催者からの大会挨拶



津市長から歓迎挨拶



13:20 いよいよ発表が始まりました!!



大人からの応援メッセージ展



三重県知事をはじめ、協賛企業・団体様から中学生へ向けて応援のメッセージをいただきました。

デザイン画展



応募数 301 点の中から選ばれた優秀作品 31 点を展示



津市橋北地区青少年育成指導委員会による実践事例発表



来場者のコメント

とても素晴らしかった、いきいきと演奏している姿に感動しました！



津市立朝陽中学校 3 年服部諒雅さんの作品がプログラム表紙を飾りました。



津市立東橋内中学校吹奏楽部による演奏



会場の様子

今年も中学生が輝きました！

中学生と大人が燃えた！夏休み最後の日曜日



厳正なる審査中

駒田審査委員長による講評



15:40 表彰式 おめでとう！

16:00 運営協力の中学生の皆さんへ
宮本会長から感謝状の贈呈



受賞者のコメント

最優秀賞を受賞してうれしかったです。
家族や先生など周りの人に感謝をしたいと思います。
(津市立橋北中学校 3年 西井萌々花さん)



次回開催の亀山市青少年
育成市民会議中坪会長に
バトンが渡されました！

**来年は
鈴亀地区へ！**

【司会・表彰アシスタント・受付・案内】

津市立橋北中学校・津市立西橋内中学校
津市立橋南中学校・津市立南が丘中学校

【実践事例発表】

津市橋北地区青少年育成指導委員会

【吹奏楽演奏】

津市立東橋内中学校吹奏楽部

【デザイン画】

津市立朝陽中学校 3年 服部諒雅さん

中学生への応援メッセージ

中学生へ三重県知事、三重県議会議員、協賛企業・団体様から
あたたかい応援メッセージをいただきました。

向き不向きより前向き！

三重県知事 鈴木英敬

夢に向かって挑戦を！！

三重県議会議員 前田剛志

夢に向かって進め！
ずっとあなた達を応援します！

荒川制服株式会社
代表取締役社長 荒川 博

一瞬一瞬を大切に！

株式会社アーステックTAGAWA
代表取締役 田川永都

成功するまで
あきらめない

イセツ株式会社
代表取締役社長 伊藤尚貴

1/74億の夢
夢の実現に向かって
進んでいこう

エコロプラス
代表 白木道明

準備をしておこう。
チャンスはいつか訪れるものだ。

有限会社岡井博進堂
代表取締役 岡井良樹

夢の種を蒔こう！

岡三証券株式会社松阪支店
支店長 谷田和之

楽しい今日に
夢の明日に

株式会社岡本組
代表取締役 岡本一彦

人生は、夢だらけ。

株式会社かんぽ生命保険三重支店
支店長 荒木 智

Also
challenge
everything!

株式会社玉城(グッディ)
代表取締役社長 早川 賢

いいことばかりでは無い、
でも次への一步を踏み出せ！

コスモスベリーズ松阪店

「天はその人に乗り越えられない試練は与えない」
を胸に刻み、実るほど頭を垂れる稲穂となれ。

久居RC所属、株式会社阪本事務機
代表取締役社長 稲森 豊

君たちの未来に向けて
共にがんばりましょう！

JAバンク三重

何事もチャレンジ！

株式会社せにや
代表取締役社長 早川 賢

一生懸命、人生を楽しめ！

総合保険の有限会社丸山
取締役 山本豊久

第三銀行は
夢を追いかけるあなたを
応援します！

株式会社第三銀行
取締役頭取 岩間 弘

自分を信じ、
何事も挑戦し続けよう。
きっと夢はかなう！

千巻印刷産業株式会社
代表取締役 塚本 誠

やってみよう
君ならきっとできるよ！

株式会社司
代表取締役 松村重矢子

無限の可能性あり
何事においても振り返らず前に進もう

津北ロータリークラブ 会長

あなたらしさを
応援します。

社会福祉法人津市社会福祉協議会

明日へ未来へ

津中央ライオンズクラブ

予祝
夢に、むかって！！

津西ライオンズクラブ
会長 丸木 充

君たちには輝ける未来がある。
夢は自分の手でつかみ取ろう。

株式会社津松菱
代表取締役社長 西村房和

先祖の誰一人欠けても
存在しなかった大切な命
生き抜く力を大切に

津南ロータリークラブ

今、熱中できるものを見つけよう！

津都ホテル
総支配人 瀬谷周一

中学生の皆さんの
明るい将来を
応援しています。

津ロータリークラブ

好きなことを
全力で！

有限会社トータルインテリアタグチ
代表取締役社長 田口秀明

目指すのは
"今以上の"未来"。

野村證券株式会社津支店
支店長 下田 学

夢はつかむことができる！
可能性を信じる
君たちを応援します。

パイロットインキ株式会社
津工場長 太田義之

Do your best!!

株式会社松阪電子計算センター
代表取締役 熊崎 孝

諦めないで！
成功は、積み上げた
失敗の上に築かれる

公益社団法人三重県医師会

何にでもチャレンジ！
未来が開くその言葉

特定非営利活動法人
三重県歯科衛生士会

君たちは未来の宝
健やかに育て！

一般社団法人三重県薬剤師会

優れた想像力とたくましく意志を大切に

三重コンニクス株式会社
代表取締役 吉田治伸

希望に向かって
自分の信じた道を

三重信用金庫

敬称略、五十音順



応援メッセージは
大会当日に会場内で
展示させていただきました！

協賛企業・団体紹介 ※五十音順

 アスカワ	株式会社アーステック TAGAWA	 ISET	エコロプラス
 OKAI (有) 岡井博進堂	 岡三証券 OKASAN SECURITIES	 株式会社岡本組	人生は、夢だらけ。  かんぽ生命 INSURANCE
 ふれあい・たいせつに きゅうとら	 グッディ GOOD DAY	 Berry's コスメスベタース	株式会社阪本事務機
 JAバンク三重	 zeniya	総合保険の有限会社丸山	 第三銀行
 CHIMAKI 信じるコミュニケーションで未来を創造する 千巻印刷産業株式会社	 株式会社 司 TSUKASA	Rotary  津北ロータリークラブ	社会福祉法人津市社会福祉協議会
 津中央ライオンズクラブ	 津西ライオンズクラブ	 松 菱	Rotary  津南ロータリークラブ
 MIYAKO HOTELS 津 都ホテル	 津ライオンズクラブ	Rotary  津ロータリークラブ	有限会社トータルインテリアタグチ
野村證券株式会社	 PILOT	 百五銀行 FRONTIER BANKING	 MEC 株式会社松阪電子計算センター
(公社) 三重県医師会	 公益社団法人 三重県歯科医師会	 特定非営利活動法人 三重県歯科衛生士会	 (一社) 三重県薬剤師会
 三重交通	 コニックス株式会社	 三重信用金庫	

本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。

参考資料 1

中学生のメッセージ 2018（第 40 回少年の主張三重県大会）作文募集要項

1 目 的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日頃感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として作文を募集します。

2 「中学生のメッセージ 2018（最終審査会）」開催期日・場所

期日 平成 30 年 8 月 26 日（日）

場所 津リージョンプラザ お城ホール （津市西丸之内 23-1）

3 主 催 公益財団法人三重こどもわかもの育成財団・津地区中学生のメッセージ実行委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構

4 共 催 三重県

5 協 力 三重県内青少年育成市町民会議

6 後 援 三重県教育委員会・津市教育委員会・三重県私学協会・三重県小中学校長会 三重県 PTA 連合会・三重県教職員組合・NHK 津放送局・三重テレビ放送株式会社 株式会社中日新聞社

7 応募について

（1）応募資格

県内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある方。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、平成 29 年度在籍の 3 年生は応募できません。

（2）応募内容

- ① 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など
- ② 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど
- ③ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など

（3）応募方法

- ① 1 人 1 点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議（以下、市町民会議という）等が主催する同様の大会において発表された作品は

提出できます。

②原稿用紙の記入方法は以下のとおりです。

ア. A4 版 400 字詰め原稿用紙（別添（様式）参照）**3 枚半以上 4 枚半以下**で縦書きに清書してください。**A4 以外の原稿用紙や枚数不足、枚数超過については、審査対象外となります。**

※大会での発表時間は**4 分半～5 分半**となります。

イ. 1 行目に作文のタイトル、2 行目に県名・学校名・学年、3 行目に名前、4 行目以降に本文を書いてください。但し、学校名等が長い場合はこの限りではありません。

ウ. 本人直筆による原本（ワープロ不可・コピー不可・但し障がい等による場合は可）に提出してください。

エ. 原稿用紙には HB 以上の鉛筆ではっきり濃く記入してください。（審査のとき、コピーをするため判読不明な場合は審査できませんので、濃さについては厳守してください。）

オ. 原稿は、ホチキス止めをせずクリップ等で止めてください。

※枚数厳守でお願いします 3 枚半以上 ～ 4 枚半以下	1 行目 タイトル 2 行目 三重県 3 行目 〇〇立〇〇中学校 4 行目 〇年 3 行目 名前 4 行目 本文 ～
--	---

③応募作品一覧（別紙 1）には、作文の基調となっている最も適当なテーマ 1 つを下記より選び記入してください。

<u>基調テーマ分類</u> 「友達」、「家族」、「福祉・障がい」、「学校」、「勉強」、「生命」、「文化・伝統」 「地域・社会」、「環境」、「職業・労働」、「政治・経済」、「国際」、「平和」 「防災」、その他（ ）

④各学校等において **3 点以内**に選考し、応募作品一覧（別紙 1）を添付のうえ、下記提出先に提出してください。

（4）提出先・提出期限

- ・各中学校等は、**平成 30 年 6 月 1 日（金）まで**に当該地域の市町民会議に提出してください。
市町民会議は作品を取りまとめ、**6 月 6 日（水）まで**に公益財団法人三重こどもわかもの育成財団（以下、育成財団という）へ提出してください。
- ・市町民会議の連絡先については、別紙 2 を参照してください。

(5) 審査基準

- ・論旨は以下のとおりです。
 - ①鋭い感性で、新鮮な主張であるか。(中学生らしさ)
 - ②新しい情報や視点があるか。
 - ③個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
 - ④提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
 - ⑤論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

(6) 入賞の選考

①第1次審査会

第1次審査は育成財団にて行い、提出された作品の中から40人程度を選考します。

②第2次審査会

第2次審査は学識経験者、青少年育成関係者、育成財団等で構成する第2次審査会において行い、最終審査会で発表する14人を選考します。14人へは7月上旬に連絡します。決定後、やむをえず出場できなくなった場合は、次点の方を繰り上げる場合もあります。なお、14人以外の作品には地域優秀賞とします。

8 中学生のメッセージ2018（最終審査会）について

(1) 発表

・第2次審査会で選ばれた14人は「中学生のメッセージ2018」において、発表します。なお、発表では、パフォーマンス（写真を使用したパネル説明や小道具を使用する等）を取り入れてもかまいません。その場合は、準備の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。

(2) 審査

・大会当日、学識経験者、教育関係者、報道関係者、青少年育成関係者、育成財団等で構成する最終審査会で審査を行い、各賞を決定します。

(3) 審査基準

- ・論旨は第1次審査会と第2次審査会と同じです。
- ・論調・態度は以下のとおりです。
 - ①落ち着いて話していたか。
 - ②聴衆に深い感動や強い印象を与えていたか。
 - ③主張の内容が共感と感銘を与えているか。
 - ④説得力のある話し方であるか。
 - ⑤話しぶりに熱意と迫力があるか。

(4) 表彰

①「最優秀賞」(1人)、「優秀賞」(3人)、「優良賞」(10人)を決定し、賞状と副賞を贈呈します。

- ② 「地域優秀賞」には、賞状と副賞を贈呈します。
- ③ 積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の 50%以上とする）に「学校奨励賞」として、賞状と副賞を贈呈します。
- ④ 作品応募者全員に参加賞を贈呈します。

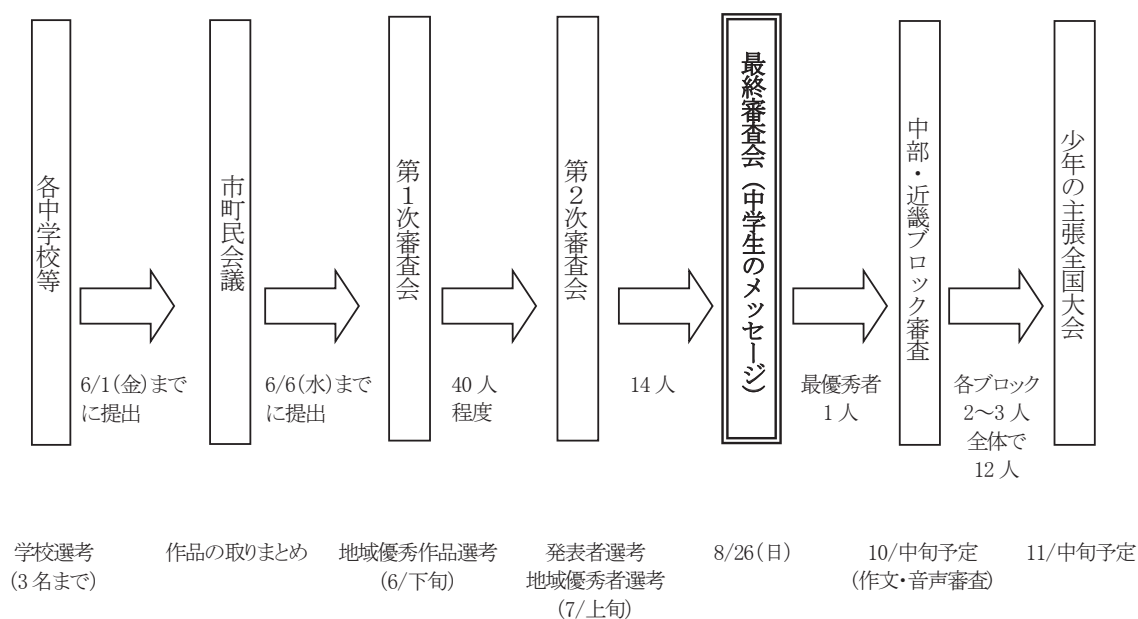
9 「少年の主張全国大会」への推薦

独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者として最優秀者を推薦します。中部・近畿ブロック審査（作文・音声審査）でブロック代表者（各ブロック 2～3 人）に選ばれた場合は、11 月中旬に東京都で開催される「少年の主張全国大会」において発表します。

10 その他

- (1) 応募作品の返却はしないのでコピーをして保管してください。
- (2) 「中学生のメッセージ 2018」開催前、育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。また、「中学生のメッセージ 2018」後、結果を発表します。最優秀賞については、作品を掲載します。
- (3) 平成 31 年 2 月頃発表報告集を作成します。その中で掲載した作品及び写真については、ホームページ、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。

11 参考：応募から発表までの流れ



問い合わせ先

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

〒515-0054 松阪市立野町 1291 中部台運動公園内

TEL : 0598-23-7735 FAX : 0598-23-7792 E-mail : ikusei@mie-cc.or.jp

参考資料 2

平成30年度内閣総理大臣賞の紹介〔少年の主張全国大会 ～わたしの主張2018～〕

人生を駆け抜ける

山形県天童市立第三中学校3年

岩 淵 礼 姫

「死にたい」、私はつぶやいた。期待に胸をふくらませていた中学校生活。しかし、そこにまっていたのは卑劣ないじめだった。指をさされ笑われた。トイレのドアをたたかれ罵声をあびせられた。すれ違うたびに馬鹿にされた。毎日苦しかった。悔しかった。もう死ぬしか逃げ場所がなかった。

そんな限界まで追いこまれた私は、ある日の朝爆発した。声が枯れるくらい泣きじゃくり、母に全てを打ち明けた。母は私の話を受け入れ、強く抱きしめてくれた。久しぶりに触れた人のぬくもりに、涙が止まらなかった。

その後、私はたくさんの人に助けられた。いじめをした人に直接注意してくれたクラスメイト、私のことを一番に考え、守ってくれた両親、陰ながら支えてくださった保護者の方々、相談に乗っていただいたり見守ってくれたりした先生方。その人たちのおかげで、「私は独りじゃない、心を閉ざさずに自分を表現していいんだ。」ということに気づかされた。そして、私は一歩前に踏み出すことができた。本当に感謝してもしきれない。

いじめを受けていた頃は、人に心を開けず、友達なんか一人もいなかった。でも、三年生になった今では、心を開けるようになり、親友と呼べるまでの大切な友達もできた。自分の存在が疎ましく、毎日通うのが苦痛だった学校も、今では、安心できる居場所となった。学校が楽しくて仕方がない。私は今、とても幸せだ。

いじめの経験は私を成長させてくれた。自分が変わるためには誰かからの助けを待つだけでなく、自ら一歩を踏み出さなければならないこと、自分を偽らず正直に表現すること、そして、一番大切なことは私自身が周りの人を思いやること。私はいじめの経験から大切なことを学ぶことができた。

いじめをする理由は様々であると思う。「社交的じゃない」「容姿がみんなと違う」「一部分がみんなより劣っている」でも、それは当り前のことではないのだろうか。

金子みすゞさんの詩に、「みんな違ってみんないい」という言葉がある。それぞれが、別々で、でもそれぞれに優劣はなく、すばらしいのだ。という意味である。みんなが同じ顔、同じ容姿、同じで性格では社会は成り立たない。だからこそ、互いを認め合いながら生きていかなければならない。それぞれに個性があるから社会が成り立っているのだ。

私は、いじめを見ている人、いじめをしている人、いじめをされている人、それぞれに伝

えたいことがある。まず、いじめを見ている人、今、少しでも助けたいという気持ちがあるなら、勇気を出して、いじめられている人に声をかけてあげてほしい。いじめられている人は「私の味方は誰もいない」という孤独感でいっぱいだと思う。声をかけてあげるだけでも心が楽になるはずだから。そして、決していじめる側の人間にならないでほしい。

次に、いじめをしている人。いじめは立派な犯罪だ。それでも、まだ、あなたは人を傷つけますか。自分のやっていることが人として本当に正しいかどうか、考え直してほしい。あなたのその一言が、あなたのその行動が、相手の命を奪うかもしれないということに気づいてほしい。

最後にいじめをされている人。今苦しくて悔しくて、もうこんな人生捨ててしまいたい、そう思っているかもしれない。私もそうだった。でも、死んで何になる。あなたが死んでしまったら、どれだけたくさんの人が悲しむか考えてほしい。あなたのたった一つの尊い命を捨てないでほしい。

「生きていて良かった」そう思える日が必ずくるから、全力で生きて。逃げていいんだよ。人生は自分の努力次第でどうにでもなるから、今は自分の命を大切にしてほしい。

私も、この経験から学んだことを活かし、たくさんの人に支えられ、助けられた自分のたった一つの命を大切に、自分は自分らしく幸せになるために、しっかりと私の人生を駆け抜けていきます。



中学生のメッセージ2018
(第40回少年の主張三重県大会)

発表報告集

平成31年1月

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団
〒515-0054
三重県松阪市立野町1291 中部台運動公園内
T E L 0 5 9 8 - 2 3 - 7 7 3 5
F A X 0 5 9 8 - 2 3 - 7 7 9 2
E-mail ikusei@mie-cc.or.jp

中学生のメッセージ2018開催案内デザイン画入賞作品紹介

地元津地区の中学生を対象にデザイン画を募集し、デザイン画展を開催しました。



デザイン画優秀賞：「私たちの思い」
津市立橋北中学校3年 名嘉 董子さん



大会当日の展示の様子



デザイン画優秀賞：「思いを伝える」
津市立西郊中学校3年 長谷川 晴南さん



デザイン画優秀賞：「私たちの未来」
津市立南が丘中学校2年 荒川 瑛梨さん